

# 2026 年度 総合型選抜 A O 入試 < 第 2 次選抜 > 小論文

## 【看護学部 看護学科】

以下の課題文を読み、困っているが助けを求めることができない人の気持ちをふまえて、困っていても医療従事者に助けを求めない患者に対して、あなたが看護師だったとしたら、どのようにかわりますか。横書き 600 字以内で述べなさい。

ああ、困ったなあ、と思ったとき、あなたは「助けて」と誰かに言えるだろうか。一人ではもう、どうしようもない、と感じたとき、「手伝って」と声に出せるだろうか。そんな何かを頼む力を表す「受援力」という言葉がある。「私も、弱みを見せること、弱音をはくというのは、すごく勇気のいることでした」。医師で、神奈川県立保健福祉大教授、吉田穂波さん（51）は話す。「プライドとか、自尊心とか、誰でもありますよね」。6 人の子どもの母親として、多くの人に助けられてきた。ありがたさは痛感している。でも、だからこそ思う。誰でも困った立場になれば、すぐに救いを求めることができる社会であってほしいと。衝撃を受けたのは、東日本大震災のときだった。支援に駆けつけた避難所で、妊婦の被災者から申し訳なさそうに言われた。「私なんか、命があっただけましです。どうか他の人を助けてあげてください。私はいいんです」。人間とは限界近くまで窮すると、かえって誰かに頼れなくなるものなのか。助けてと口にすると、その瞬間、頑張っていた何かがポキリと折れてしまうからだろうか。

出典：天声人語，朝日新聞，2025.01.08.(一部抜粋)  
承諾番号 26-0698 朝日新聞社に無断で転載することを禁じる